

中条きよし
萩原流行
金子賢
濱田のり子
野本実穂乃
成瀬正孝
清水健太郎
鷹瀧太郎
長島慶造
深浦加奈子
梅津栄
左とん平
白竜
本田博太郎
古尾谷雅人
室田目出男

企画:利倉亮
プロデューサー:前田茂司、江尻健司
原作:安藤昇
脚本:森岡利行、志村正浩、工藤栄一
監督:工藤栄一
撮影:下元哲
照明:中元文孝
録音:沼田和夫
美術:石毛朗
編集:金子尚樹
殺陣:深作寛
音楽:ヴィヴァルディ
演奏:アルヘル・ロメロ&ベベ・ロメロ
製作:オフィス中条、アーバンタイムス
制作協力:レジェンド・ピクチャーズ
配給:日本スカイウェイ

「親分に惚れてやくざになつたんだ」
「組織なんかは関係ない」

「男はやすらぎを求めた…だが狼たちはそれを許さなかった!」

安藤組外伝 群狼の系譜

工藤栄一監督作品

1998年ウィーン国際映画祭(VIENNALE)正式招待作品

優作前が樂だ
がで今度何やかが!

「ヨコハマBJブルース」



女ひとり幸せいに
刑事と女犯匹敵
「野獣刑事」狂



こなじ悪はち壊たる!

「まむしの兄弟・二人合わせて30犯」

「赤と黒の熱情」
やさしさが痛た。銃弾の愛ストリ

「E I I T I」

「K U D O」

「工藤栄一の世界」

「忍耐力が最も恐れしが始!」

「影の軍団・服部半蔵」

「裏うはたた度! 13サバス」

「失敗を許されぬ」

「十三人の刺客」

「その後の仁義なき戦い」

「俺たちの暗闇の夜の光」

「友達よお前は」

「何まで走れるか」

「この申密者」

「やくざ対Gメン・団」

「十三人の刺客」

「その後の仁義なき戦い」

「男」の世界にドップリつかりたい奴は見るべし!

サンフランシスコ対日講和条約が調印された1951年(昭和26年)に東映が発足。工藤栄一は翌52年・一期生として入社した。東映をはじめ東宝、松竹、大映、日活、新東宝の6社が競争を競っていた日本映画黄金時代の59年、娯楽時代劇「富嶽密帖」で監督デビュー。翌60年には、同年発足した第二東映の第一作となる「次郎長血笑記(四部作)」を監督してスマッシュヒットを飛ばし、その職人芸に磨きをかけていった。だが映画界にも斜陽の波が確実に押し寄せていた。安保による政治不安もあり、観客は従来のような娯楽時代劇では満足出来なくなっていた。そこで登場したのが、特定の個人ではなく集団を主人公に捉えて、体制の暗部を鋭く抉り出し、クライマックスに至って大殺陣を繰り広げる「集団抗争時代劇」であった。その代表作「十三人の刺客」は、脚本・演出・演技が三位一体となった奇跡のような大傑作であり、この一作で工藤栄一の名は映画史にしっかりと刻みこまれた。続編ともいって「大殺陣」は、前作のテーマをさらに絞り込んだ妥協なき傑作となった。結局、仁侠路線の隆盛と共に、集団抗争時代劇も終焉を迎えた。仁侠路線には拒絶反応を示した工藤だが、佐治乾の好脚本を得た「日本暗黒史・血の抗争」「同情無用」の二部作は、「仁義なき戦い」シリーズでブレイクする実録ヤクザ路線を先取りした快作となった。これは主演の安藤昇の自伝的作品で、彼が俳優に転向して間もない頃のせいか、既成の俳優にはない生の迫力がビシビシ伝わって来る。一方、「必殺」シリーズ、「傷だらけの天使」シリーズなどで、藤田まこと、萩原健一、水谷豊らに出会って、テレビにも新たな可能性を見い出した。久々に映画に復帰した「その後の仁義なき戦い」では、チンピラヤクザたちの吃咤と挫折が、激しくも繊細に描かれて工藤栄一の健在ぶりを強烈にアピールした。その後も「ヨコハマBJブルース」「野獸刑事」「逃れの街」「赤と黒の熱情」といったハード・ボイルド・タッチの作品では、独自の映像美と抒情性を絶妙に融合させて、他の追随を許さない工藤栄一ワールドを見せてくれる。新作「群狼の系譜」では、安藤昇が原作者で、出演はしていないが監督とは久々のコラボレーションとなるだけに興味はつきない。主演の中条きよしの気迫あふれる演技も見ものである。ともあれ工藤栄一の新作と旧作が、こんなにまとめて観られる機会はめったにない。「男」の世界にドップリつかりたい奴は見るべし!

ダーティ工藤(映画評論家)

工藤栄一監督作品 安藤組外伝 群狼の系譜

キャスト
中条きよし／萩原流行／金子賢／濱田のり子／野本実穂乃／成瀬正孝／清水健太郎／鷹瀧太郎
長島慶造／深浦加奈子／梅津栄／左とん平／白竜／本田博太郎／古尾谷雅人／室田日出男

スタッフ

企画:利倉亮／プロデューサー:前田茂司、江尻健司／原作:安藤昇／脚本:森岡利行、志村正浩、工藤栄一／監督:工藤栄一／撮影:下元哲／照明:中元文孝
音楽:沼田和夫／美術:石毛朗／編集:金子尚樹／殺陣:深作健一／音楽:ヴィヴァルディ(2つのギターのための協奏曲)／演奏:アルヘル・ロメロ&ヘベ・ロメロ(ギター)
アカデミー・オブ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ(リーダー:アイオナ・ラウ)／製作:オフィス中条、アーバンタイムス／制作協力:レジエンド・ピクチャーズ
1998年ウィーン国際映画祭(VIENNALE)正式招待作品●1997年●ビスタサイズ●カラー●138分●配給:日本スカイウェイ



『十三人の刺客』『ヨコハマBJブルース』『必殺!』の巨匠・工藤栄一が5年ぶりにメガホンをとった最新作『安藤組外伝 群狼の系譜』。

原作には、かつて安藤組組長としてその地位を築き上げた安藤昇。主演に、昔気質の本物のやくざという役柄に挑む中条きよし。光と影、静と動を巧みに操る独自の映像美に全編ヴィヴァルディの旋律に彩られ、昨今のヤクザ映画とは一味も二味も違った重厚感ある作品である。

ストーリー
関東に拠点を置く秋田会の代貸(白竜)が、関東進出を狙う関西系三雄会ヒットマンの手によって刺殺された。時を同じくして、十四年ぶりに婆娘の空気を浴びた秋田会行動隊長・小諸久(中条きよし)。彼は誰の出迎えもなかった証を火葬場で知った…。秋田会会長(室田日出男)に暖かく迎えられる小諸だが、出所したばかりの小諸に気遣ってしばらく身を隠す様、勧める。又、若衆の一人だった新庄(萩原流行)は自分の組を持つまで出世しており、時代の移り変わりを肌で感じる。街に出た小諸は、かつての兄弟分(左とん平)との再会や舍弟(金子賢)との交流で心を休める。そして、ある怪我で入院した病院で出会った看護婦・秋江(濱田のり子)のやさしさに、小諸は次第に心を奪っていく。だが、徐々に激しさを増す三雄会との抗争によって命を落とした舍弟や兄弟分たちを弔うため、何處か二人でひそり暮らしたいと願う秋江の想いを振り切って、一人、三雄会に向かう。しかしそこには、企業ヤクザとして三雄会と手を組んでいた新庄がいた。拳銃の引き金を引く小諸…。

工藤栄一監督の映画はハードボイルドであります。男の目頭を熱くさせるハードボイルドであります。時にはロングでクールに対象を見つめたりするのがたまらなくハードボイルドであります。カッコよく生きるということは、時に不機嫌だったり、時に情けなかったりするのですが、それを突き放すようにクールに見据えるからなおさらハードボイルドなのであります。ハードボイルドの定義というものもある種不明瞭だったりするわけですが、工藤監督の展開する世界こそがハードボイルドだと思う次第であります。

(杉作J太郎・映画評論家)



十三人の刺客

將軍の弟で明石藩主である暴君を権力の座から抹殺するべく、刺客が送られた。策士、剣の達人、血氣にはやる若者など13人の暗殺隊の壮絶な死闘を、ダイナミックなカメラワーク、スピード感あふれる映像で描いた「集団抗争時代劇」の傑作。

[1963年・モノクロ・125分]

脚本:池上金男／撮影:鈴木重平／音楽:伊福部昭
出演:片桐千恵蔵、嵐竜太郎、西村弘、里見浩太郎

十三人を演じた俳優の名前を全て
言える奴はエライ!
ちなみに十三人目は山城新伍である。

ダーティ工藤



やくざ対Gメン・囮

飯干晃一の同名小説を梅宮辰夫、松方弘樹主演で映画化したヤクザ映画。保釈を条件に警察のスパイになったヤクザ組織の幹部と、すこ腕の麻薬Gメンが、ヤクザ組織に潜入する。暗黒街に生きる男の心意気を熱っぽく2人が演じる。

[1973年・カラー・93分]

原作:飯干晃一／脚本:高田浩治／撮影:赤塚滋／音楽:松原社平
出演:梅宮辰夫、松方弘樹、菅原文太、金子信雄、堀越光恵

大阪を舞台に展開する和製ハードボイルド決定版。
松方弘樹アニーのハードな自慰は一見の価値あり。杉作J太郎



まむしの兄弟

勝は莫大な資産を持つ老女・弥生の息子で、3歳の時に別れ別れになつたと分かり、彼は弥生と涙の対面をする。しかしこれは加賀組が弥生の財産目当てに仕組んだ芝居だと判明。まむしの兄弟は、加賀組の事務所へ殴り込む。

[1974年・カラー・93分]

脚本:鶴井達也／撮影:尾元也／美術:井川徳道
音楽:山浦健次郎
出演:菅原文太、川地民夫、東ミチ、三宅邦子、成田三樹夫

ジョーク抜きで男が泣ける
感動の一作。ヒロイン・東ミチの魅力に元氣モリモリ!

杉作J太郎



その後の仁義なき戦い

題名に「仁義なき戦い」と銘打っているものの、本シリーズとは直接関係のない、いわば番外編。監督は深作欣二から工藤栄一にバトンタッチ。暴力組織の内部抗争という設定の中で、弄ぶされる若者たちに焦点を合わせ、友情、裏切り、激烈な生きざまを描く。

[1979年・カラー・128分]

原作:飯干晃一／脚本:神波史男、松田真夫／撮影:中島徹／音楽:柳ジョージ
出演:根津甚八、宇崎竜童、松崎しげる、原田美枝子、松方弘樹
小池朝雄、成田三樹夫

出口のない青春はホロ苦…
柳ジョージ&レイニーウッドのブルージュ! ウルが炸裂!

杉作J太郎



その後の仁義なき戦い

「十三人の刺客」(A)「やくざ対Gメン・囮」(B)「まむしの兄弟」(C)
「その後の仁義なき戦い」(D)「影の軍団・服部半蔵」(E)
「ヨコハマBJブルース」(F)「野獣刑事」(G)「赤と黒の熱情」(H)

6月13日(土)～26日(金)「工藤栄一の世界」上映!

●当日一般:1,500円／学生:1,300円／シニア・水曜日:1,000円

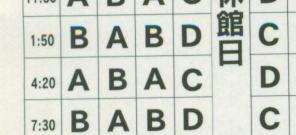
(最終回1本:1,000円)

●作品日程

「十三人の刺客」(A)「やくざ対Gメン・囮」(B)「まむしの兄弟」(C)

「その後の仁義なき戦い」(D)「影の軍団・服部半蔵」(E)

「ヨコハマBJブルース」(F)「野獣刑事」(G)「赤と黒の熱情」(H)



※作品は二本立て上映。お席の入れ替えはありません。

13 (土) 14 (日) 15 (月) 16 (火) 17 (水) 18 (木) 19 (金)

11:30 A B A C 休 D C

1:50 B A B D 館日 C D

4:20 A B A C D C

7:30 B A B D C D

20 (土) 21 (日) 22 (月) 23 (火) 24 (水) 25 (木) 26 (金)

E F E F G H G

1:50 F E F E H G H

4:20 E F E F G H G

7:30 F E F E H G H



影の軍団・服部半蔵

家光の死後、世継ぎ争いに揺れる徳川幕府の舞台裏で、実力者の下で影のように暗躍する服部家の忍者と、甲賀軍団との死闘を描く時代劇。工藤栄一のダイナミックな演出、奇抜なコスチュームなど、徹底した娛樂性が面白い。

[1980年・カラー・133分]

脚本:高田宏治、志村正治、山田隆之／撮影:中島徹
音楽:原田祐宜
出演:山田隆之、金子信雄、成田三樹夫、渡瀬恒彦、西郷輝彦
織方拳、森下愛子

米大陸に吹き荒れたネオ忍者ブームの先駆けとなった作品
アメフトを模した格闘シーンは永遠に新しい! 杉作J太郎



ヨコハマBJブルース

松田優作主演によるハードボイルド・アクション。横浜のうらぶれたバーでブルースを歌う探偵BJが、麻薬取り引きに絡んだ暴力団の抗争に巻き込まれる。横浜ロケが効果を上げ、劇中に松田優作が数曲歌いノドを聞かせてくれる。

[1981年・カラー・112分]

原案:松田優作／脚本:丸山昇一／撮影:仙元誠三
音楽:クリエーション
出演:松田優作、内田裕也、財津一郎、辺見マリ、蟹江敬三

便器に座って飯を食う優作が
オシャレだぞ!
ところでトビー門口は
今どうしているんだろう。ダーティ工藤



野獣刑事

はみ出し刑事と、犯人として捕まえた男。そしてその妻との三角関係を軸に、工藤監督がハードに描くアクション・ドラマ。ふだんは気が弱いが、覚醒剤を打つと人が変わったように暴力をふるう男に泉谷しげるが怪演している。

[1982年・カラー・119分]

脚本:神波史男／撮影:仙元誠三／音楽:大野克男
出演:緒形拳、いしあゆみ、泉谷しげる、成田三樹夫、小林薰

細身だが結構ボイン(死語?)の
いしあゆみの乳を
野獣刑事・緒形拳が
役得でもみまくり。ダーティ工藤



赤と黒の熱情

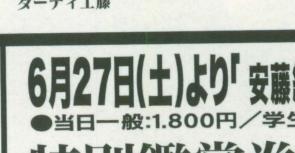
組の資金を強奪した弟分、矢崎を組の命令で殺したヤクザ松浦。兄の死で廃人同様になり記憶喪失になった妹、沙織。自らの罪を償うべく松浦は、彼女のために美しい思い出づくりごっこを始めるのだった…。アウトローの人生をホロ苦いタッチで描く。

[1992年・カラー・108分]

脚本:野沢尚／撮影:仙元誠三／音楽:豊昌紀見男
出演:緒形拳、いしあゆみ、泉谷しげる、成田三樹夫、小林薰
原作:内田裕則、麻生祐未、仲村トオル、古尾谷雅人、余貴美子、内藤剛志、柳葉敏郎

柳葉敏郎は出番は少ないがもうけ役。
第2の高倉健・仲村トオルは
相変わらず食われる。

ダーティ工藤



6月27日(土)より「安藤組外伝 群狼の系譜」ロードショー!

●当日一般:1,800円／学生:1,500円／シニア・水曜日:1,000円

特別鑑賞券1,500円発売中!

※劇場窓口、チケットぴあ、チケットセゾンにてお求め下さい。

上映時間 11:20 2:00 4:40 7:20

KINTEX

キネカ大森

※映画をご覧の方は、駐車料金が4時間まで2,800円となります。

丁140-0031
品川区南大井6-27-25
JR大森駅東口西友大森店5F
TEL03-3762-6000

